大森東地区管内人口		
人口	男	10,336 人
	女	9,301 人
	計	19,637 人
世帯数		11,091 世帯

（令和８年９月１日現在）

おおもりひがし地域情報 いつつのわ

手をつなぐ５自治会
- **大森東自治会**（平林　敏夫　会長）
- **大森東四丁目自治会**（伊藤　音嗣　会長）
- **川端自治会**（江藤　豊　会長）
- **大森南自治会**（平林　茂　会長）
- **森ヶ崎自治会**（野口　多加志 会長）

発 行：地域力推進大森東地区委員会　　編 集：地域情報紙「いつつのわ」編集委員会

【編集委員長】平林 典明（川端自治会）　【副編集委員長】重政 真波（大森東自治会）／須山 芳明（大森東四丁目自治会）
【編 集 委 員】田中 文雄（大森東自治会）／福本 享子（川端自治会）／野口 弘子（大森南自治会）／魚住 みさ子（大森南自治会）／安藤 澄枝（森ヶ崎自治会）／江原　良子（森ヶ崎自治会）／伊藤 音嗣（大森東四丁目自治会）【事務局】阿部 希（大森東特別出張所）

どこでも児童館と大森南図書館

令和8年度4月から本格的に始まった「どこでも児童館」。今年3月末で大森南児童館が閉鎖されるという話から、こどもたちや保護者の方の居場所が必要だということを聞き、「なら、ぜひ大森南図書館でやりましょう」と、今年1月から3か月の移行期間を経て現在に至っています。こどもが減少してはいるものの、地域「児童館」の役割は大きく、こどももその保護者の方もほっとする場であったと思います。図書館は児童館の替わりにはなりませんが、図書館では毎週水曜日にお話会を開いていることもあり、これに繋げられるに違いないと思いましたし、図書館で行うことで、こどもたちが大きくなっても図書館を使うきっかけ作りにもなるとも思いました。

現在では、毎月第1,3,5週目の水曜日に図書館のお話会（幼児向け）に続いて行っています。地域の児童館の方が順番に来てくださり、前半は音楽に合わせて体操したり、歌ったり、工作したりして、後半は、それぞれがお気に入りのおもちゃで遊びます。今では毎回楽しみにして来てくれる親子もいて、「帰りたくない～」と泣く子もいます。最近では、大森南児童館に来ていた親子だけでなく、他の児童館の親子も参加してくれるようになりました。また帰りには本を借りに児童室によって本を借りたり、当館自慢の布絵本を見てくれたりしています。そんな姿を毎回見ていると、改めて図書館でやってよかったなと思いますし、こどもの居場所が図書館にあるという意味はとても大きいと感じています。

そんな大森南図書館も今年、開館50年を迎えます。この図書館をこどものころから利用してくださっている方も多いでしょう。大森南図書館が、皆さんにとって、居心地がいい場所であり、いつまでも皆さんの宝物箱であればいいなと心より願ってやみません。11月には開館50周年イベントをたくさん用意していますので、皆さんと祝いたいと思います。

大森南図書館長　横山美穂




大森東 こども作品館

大森第一中学校 作品

「大森東 こども作品館」第 13 弾は、大森第一中学校の作品を掲載しています。
生徒のフレッシュな作品を皆様ご鑑賞ください。


【友達のギャグがスベった3秒後の顔】
3-1 立迫 南


【ポロシャツを着た自画像】
3-2 大場 胡桃


【海の夕日】
2-1 グェン ホアンカットティエン


【メガネ】
1-1 稲野 志織

大森びと ～リレートーク～ Vol.14

トークテーマ
『大森東地区管内の福祉施設』

大田幸陽会のぞみ園

社会福祉法人大田幸陽会「のぞみ園」は1996年に開設し、1998年より現在の地（大森南2-15-1：大田幸陽会会館）へ移転いたしました。皆さまのご理解とご協力をいただき、おかげさまで今年、30周年を迎えました。

現在、のぞみ園は「就労継続支援B型事業所」として、54名の障害のある方が通い、日々の活動に励んでいます。同じ建物内には「大田区立つばさホーム前の浦」と「法人本部」もあります。

のぞみ園には、「働きたい」という意欲のある方が多く通所しています。日中活動では、区や企業から受託した清掃作業や室内作業、オーストリア製クリスタルを使ったアクセサリーの制作・販売などを行っています。利用者さんが安心して力を発揮できるよう、支援者は特性を理解し、わかりやすい伝え方や仕組みの工夫、環境の調整などをしています。また、卓球や太鼓などのクラブ活動、宿泊訓練や外出行事など、余暇の楽しみも大切にしています。

毎年10月の「いつつのわふれあい祭り」には、太鼓演奏やアクセサリー販売で参加しています。そして、地域の5つの自治会や民生委員児童委員協議会、青少年対策委員会の皆さまと創り上げる「いつつのわ幸陽祭」は、今年は11月14日に開催予定です。お祭りで皆さまとお会いできるのを、今から楽しみにしています。

大森東地区で活動する中で感じるのは、地域の皆さまの温かさです。公園清掃中のお声がけやバス停での見守りなど、街に温もりが溢れています。昨年度参加した大森第四小学校の授業でも、子どもたちの柔軟な発想と街への想いに刺激を受けました。

大田幸陽会会館では、地域の皆さまと繋がる場として、毎週水曜午後に「お休み処」を開いています。どなたでも気軽に、ホッと一息、おしゃべりができる場所です。ぜひお立ち寄りください。

地域に支えられて30年、皆さまへ「30年分のありがとう」の気持ちを込めて。これからも笑顔で繋がるこの街で、ともに過ごしていけたら嬉しく思います。



受賞おめでとうございます

【令和8年度大田区交通安全功労者】
板橋　晴美（大森南自治会）

第13回 いつつのわふれあい祭り 開催！

10月18日(日) 10時～15時 小雨決行

昨年延べ約17,000人が来場した大森東地区のお祭りが今年も開催★今年は大森第四小に加え、大森東中の児童も出店！

地域のみなさまのご参加を心からお待ちしております！

祭りHP




地域の行事

●10月18日(日)
★いつつのわふれあい祭り

●11月7日(土)、11月8日(日)
★OTAふれあいフェスタ

●11月14日(土)
★いつつのわ幸陽祭

●11月14日(土)
★大田区平和祈念花火



編集後記

まだまだ厳しい残暑が続いていますが、ほんの少しだけ朝夕は秋の涼しさを感じるようになってきました。

さて今回掲載した内容は、どこでも児童館、伝統文化、ホタルの夕べ、などどれを取っても自然や人とのつながり、それが大切だとあらためて感じられる内容だったのではないでしょうか。こういったことを継続していくには、参加してみる、見に行ってみる、ことが大切です。どうぞ少しでもご興味がありお時間ある方は、今後もぜひいろんな行事を見てふれて参加してみてください。

編集委員一同

ホタルのタベ

大森東４丁目自治会　須山　芳明

ホタルのタベが開かれたのは森ヶ崎水再生センターです。

水再生センターはは東西二つの施設からなり、処理区域は品川・目黒・大田・世田谷の大部分、渋谷・杉並の一部です。

森ヶ崎水再生センターはわが国最大の水再生センターで、ホタルが見られたのは西側の施設でした。

施設の外では各団体によるブースが出展され、大森東特別出張所もまた、地域のイベントのPRブースを出しておりました。

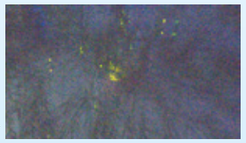


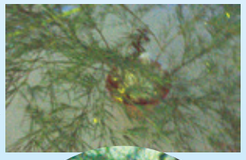


ホタルのタベでは、施設の見学会も開催され、見学させていただきました。流入下水はまず前スクリーンで大きなゴミを取り、浮遊しているゴミは自動スクリーンで取り除き、下水は沈砂池に入り、土や砂などが除かれます。

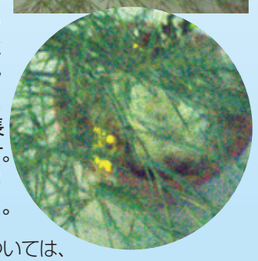
次いで、第一沈殿池で沈みやすい汚れをとり、反応槽では活性汚泥の力を借り、汚れを微生物が分解します。第二沈殿池では活性汚泥の塊を沈殿させ、上澄みと汚泥に分離し、汚泥は城南島にある南部スラッジプラントで焼却処理されます。上澄みは塩素処理された後放流されます。私は昭和５０年頃に某自治体職員として大きな食品工場に立ち入り検査を実施しましたが、規模はもっと小さなものでした。当時活性汚泥の健康状況が悪いと処理水がきれいにならないと担当者が言っておりました。今も管理が大変だと思いました。

次にホタルを見学したいと思い、展示している所を聞きましたら事務所の４階で室内ということで、事務所の中に入りました。まず大きな待合室で待機し、前の見学者が終わったら順番に見学場所に進むとの事でした。部屋に入るようにと言われましたが、部屋は真っ暗で進めません。案内する人が懐中電灯を点けた途端全容が分かりました。見学場所は部屋の中に２つあり、それぞれの場所の中央に生け花をいけるように竹の小枝が多数真ん中の容器に刺されています。懐中電灯の光が消されると真っ暗になり、よく目をこらすと黄色みかかった小さな光が下の方や少し上の場所で光っています。ヘイケボタル（体長７から１０ミリ）とのことで初めて身近に見ましたが、まず小さなのには驚きました。





よくテレビの映像で見ておりましたのは、渓流やきれいな水が流れる川辺で見られるホタルは、青白く明るい光を規則的に点滅させるゲンジボタル（体長１０から２０ミリ）とのことです。大きさが全く異なることが、実感されました。いい経験でした。



※本年度より「ホタルのタベ」については、
「森ヶ崎水再生センターサマーフェスティバル～ホタルのタベ～」として開催

時代が変わったのね

森ヶ崎自治会　安藤　澄枝

アレ！！なんだか不思議な気持ちになりました。ある日夜間パトロールで海岸の方に行ってみると小学６年生か中学１年生位の男の子達がキャッキャッと火を持ちながら騒いでいました。私達もすぐ「火あそびはやめて下さいね」と言うと少年達は声をそろえて「はい！！わかりました、やめます」と元気な声で火をすて「すみませんでした」との返事をもらいその場を別れてからうしろを見ると、子供達が同じ事をくり返していました。よく考えればこんな事はよくある事でしょう。あたりまえなんですね。

自分達の子供の頃を思いおこすといろいろな事がありました。大人の返事も聞かず同じ事をしていた様な気がします。でも少し違うことは悪い事や良い事の分別がついていた気がします。又ある会社に連絡すると女性の事務の方が出てなかなか通じなかったので、他の人に代わってと頼むと別の女性が出て「彼女は悪くないのです」との事で、公私混同してその後彼女をかばっていました。あ然として、私がどこにかけているのか分からない様になりました。

テレビ中継でも「闇バイト」で他人を殺めても自分がしたのではない、言われたからやったと他人事で、犯罪の本当にこわい事を知っているのでしょうか？他人事でお金の為なら何でもするとの考え方が一般的になり、カサカサの人生の様に見えます。世の中が流れ変化してゆくと人も心の考え方も変化してしまう時代で、やりきれない心配があります。

世界中がもう少しやさしい国々であって欲しいと思います。

口先だけではなく真心の世の中にしたいものですね。



地域で活躍！伝統芸能

浦守稲荷囃子会と神楽

浦守稲荷囃子会　会長　牧野　泰典



浦守稲荷囃子会は浦守稲荷神社を活動拠点として、地域の伝統文化、「祭囃子」「お神楽」の継承普及に努めています。

当会は囃子会としては珍しく、相模流里神楽「池田社中」を傘下に持ち、メンバーは囃子と神楽の両方を習い、浦守稲荷神社のみならず、様々な神社のお祭りでも活躍しております。

囃子と神楽の二刀流をこなす囃子会は、大田区広しといえど浦守稲荷囃子会だけではないでしょうか。

本誌「いつつのわ」掲載を機に、多くの皆様に神楽について興味を持って頂けたら幸いです。

Q1、神楽とはどのようなものでしょうか

「古事記」「日本書紀」に記述されている、天岩戸の前での天宇受売命（あめのうずめのみこと）の舞が起源とされています。宮中や神事祭祀で行われる神楽を「御神楽（みかぐら）」、民間のものは「里神楽（さとかぐら）」と呼び、各地の習俗や信仰と結びついて伝承され、神社のお祭りで、神様と人々が楽しむ芸能として広まりました。

里神楽は、古事記や日本書紀の神話を題材として、お面をつけた舞方が、音楽に合わせて身振り手振りで所作を表現する黙劇風の面芝居です。能や歌舞伎と違い、セリフがないのでストーリーを知らないと理解が難しいため、最近では解説を入れながら披露することが増えました。



Q2、神楽の構成について教えてください。

笛、大拍子、大太鼓、鉦（かね）などの楽器を皮師（かわし）と呼ばれる「囃子方（はやしがた）」、舞を舞う「舞方（まいかた）」で構成され、演目によって人数や舞台装置、小道具などが違ってきます。

Q3、一人前になるにはどんな修行をするのでしょうか

笛を例にすると、基本の曲を数曲、それを使った演目をマスターして初めて舞台に上がることができます。それから曲数と演目を増やしていき、笛担当として一人前になっていきますが、そのあいだも大拍子など他の楽器も学んでいきます。

初舞台から10年ほどでメジャーな演目を一通り経験し、皮師として一人前となります。舞方も同様に、役に応じた舞を数多く習得していって一人前となります。



Q4、神楽に携わって良かったと思うことは

Q1でも書きましたが、黙劇ですのでジェスチャーのみで様々な表現をします。いい演技が出来たときは、舞台途中でも拍手が鳴ります。最近では外国の方が見ることも多くなりましたが、彼らも拍手をしてくれます。「伝えたい表現がちゃんと伝わっているんだなぁ」と嬉しくなります。

新たな挑戦

平林　明莉

私がおはやしに出会ったのは小学校の夏休みの子どもクラブでした。４年生と５年生の２回体験をして興味をもち、他の習い事が落ちつく時期になるからと両親と相談をして、「やりたい」と思ったのがきっかけです。

おはやしは仲良しのお友達と一緒に習い始めました。実際にやり始めると楽ふがない事におどろきました。先生に一から教えてもらい音で覚えていくのも大変で難しかったです。後半になるにつれてもっと難しくなり、音も取りにくくなって前半からのを忘れないように続けるのもきびしかったけれど、休けいの後も他のメンバーがやっている時もやったり家でも練習を重ねました。メンバーの皆さんとも会話が出来るようになってきた頃に、先生から「ソロでやるよ」と言われ、とてもびっくりしました。一人でやること、覚えられるかが不安だったからです。



そしてデビューの日。祭礼の初日は朝から集合し、準備して練習をして本番です。練習で一度だけ少し人の前で叩いた時もあったけれど、いざもっと多くの人の前でやるとなると緊張して思ったよりも手が動かなくて止まってしまいました。覚えたのに、忘れていないのに、言ってもらって出来たりして焦りました。

２日目。１日目と違って山車に乗って叩きました。２日目は少し慣れてきて、山車はグラグラと少しゆれて怖かったけど、段々とついていけるようになり、コツも教えてもらって意識して叩けるようになりました。頑張ったけれど、ソロはやっぱり難しかったです。でも「大丈夫だよ」「上手になっているよ」と言ってもらえて嬉しかったです。

２日間のおはやしが終わって、まだまだ出来ない部分が多いので、これからもっと練習したいと思いました。そして一人でも自信をもって叩けるようになりたいです。

